

子どもと地域をつなぐ用事造形の可能性を探る

つ	な	が	る	場					
		と	し	て	の	「	展	示	」
「	展	示	」	で					
		何	を	見	せ	る	か	？	

実践のきっかけ（研究背景）

園での展示についての現状調査を目的に
青森市内の幼稚園（2015）にアンケートを実施
質問項目：展示の形態や規模、制作する作品など

アンケート結果

(1) **展示方法（作品の配置や装飾）**で工夫している点はなんですか？

- ・園で共通のテーマを設定
- ・作品がよく見えるような配置や装飾
- ・遊べる、体験型の展示

(2) **展示を通して伝えたい事**はなんですか？

- ・「子ども達のがんばり」
- ・「一人一人の個性」
- ・「作品の作り方などの過程」
- ・「テーマと作品作りの経過」

アンケート結果から考察

展示方法の工夫⇔展示を通して伝えたい事の間に差

→（疑問）作品の展示では子どもの制作過程のがんばりや笑顔は見えないのか？

実践方法

認定こども園 百石幼稚園「子どもの生活と表現展」の中で、
子どもの制作を保育士や保護者と考えるワークショップ形式の講座を実施

講座タイトル

「子どもの作るを考える」(2016)

「子どもの作るから10の姿の足跡を探そう」(2017)

「子どもの作るを発見しよう」(2018)

ワークショップの内容

講師（ファシリテーター役）と共に展示を一緒にまわり、
参加した保育者が自分の担当or他のクラスの子ども達の作品を評価する

評価方法

- ・値段をつけよう
- ・いいねをつけよう
- ・展示の写真集（図録）を
作る時に入りたいカットを選ぼう



実践結果（ワークショップであがった評価）

(1)値段の高い作品

みんなで考えて作った作品「〇億円！否、売れない！」

(2)たくさんイイねがついた作品

「〇〇くんがここまでやったんだから、イイねつけないとね。」と
たくさんの先生がいいねをつけに来た。

(3)親子制作

「あのお母さんすごい苦勞してて、でもここまで作ったんだよ見て。」

「親の方が毎年張り切って、こんな作品に！」
→楽しく（&戸惑い）参加する大人の姿の共有



実践の結果から考察

→ (疑問) 作品の展示では子どもの制作過程のがんばりや笑顔は見えないのか？

展示をフィードバックの場とすることで保育士の伝えたい制作過程が見えてきた。

- ・子ども達がどう**頑張った**のか、どんな**成長**が見えたのか
- ・自分（保育者）がどう**面白い**と思ったのか
- ・保護者の**参加**について

また、上手だから/完成度が高いからという評価はほぼなかった

展示を

ある先生をつぶやきから

「自分のクラスの展示準備に追われてて見てたようで見れてなかった、じっくりと他のクラスの**展示を見る**ことができた」

結論と今後の課題

保育を語る場としての展示へ

見る/見せるだけではなく、語る（文字で記す、会話する）ことで、**つながる展示**になる。

①生活をまとめ、語れる場としての展示と良いまとめ方とは？

・普段の生活はキレイにまとまっている訳ではない、どうまとめて語る場を作るか

②「作る」から子どもの想いを発見する眼を養う場としての役割と効果的なフィードバックの仕方とは？

・保育者は子ども達と一緒に制作する中で語る（べき）こと発見する眼が必要ということになる。どのように効果的に眼を養うか

・また、保育者自身がどう関わりどう思ったか保育者自身の魅力も再発見される場としての展示を目指すことが望まれる